

○議長 知念富信君 これから本日の会議を開きます。本日の議事日程は、あらかじめお手元に配付したとおりでございます。

開議（午前10時00分）

日程第1．会議録署名議員の指名

○議長 知念富信君 日程第1．会議録署名議員の指名を行います。本日の会議録署名議員は、会議規則第127条の規定によって15番 大城真孝議員、1番 玉城 勇議員を指名します。

日程第2．一般質問

○議長 知念富信君 日程第2．一般質問を行います。それでは、通告書のとおり順次発言を許します。4番 石垣大志議員。

〔石垣大志議員 登壇〕

○4番 石垣大志君 おはようございます。石垣大志、一般質問最終日のトップバッターを行いたいと思います。最終日を選んでしまって、ちょっと失敗だったなと思ったのが、先輩方に全部言いたいことを言われてしまったというのがありますので、一応時間内に終わるように努力をしたいと思います。それでは、一般質問を進めさせていただきます。

1. 新型コロナウイルスにどう向き合うか。（1）世界中で在宅勤務やリモート会議、ペーパーレス化等、人との接触を極力避けなければならない状況において、テクノロジーを活用することで人との接触の回避、感染拡大抑制などの様々な課題解決を図る取組が行われている。感染拡大に対応できる行政体制の構築が問われており、今後の第2波、第3波を見据えた対策が急務になってくると考えます。本町の今後の取組、対策の方針はあるか。（2）第2波、第3波を見据えた経済対策、生活福祉支援、影響を受ける事業者への支援策等の検討は。

2. 情報提供について。（1）情報提供の質の向上が登録者数の増加にもつながると考えます。LINE画面上で住民の悩みが解決できれば、役所の業務効率化、加えて人との接触回避、感染拡大の抑制にもつながる。①今後のLINE公式アカウント登録者数の目標はあるか。②AIチャットボット導入は。③今回の新型コロナ対策による各種給付金等の問合せがあったと認識している。今後はYouTube等の動画を活用した説明案内をすることで、制度への理解が深まり、活字よりも効果があると考えますが見解を伺います。

3. LINEやスマホ納税の導入は。（1）過去の一般質問で、スマホアプリ決済導入

はシステム改修により活用できるとの答弁がありましたが、調査検討の状況は。

4. A I、R P A導入で業務効率化を図れ。(1) A I、R P A活用による業務効率化は、新型コロナ感染拡大により、重要性が増し、喫緊の課題であると考えますが、導入の検討状況を伺います。

5. 複合災害への対応を問う。(1) 先月5月の大雨により、町内河川での氾濫が見られました。浚渫等の対策対応が喫緊の課題であると考えますが、早期対応を求む。(2)

(1)の災害は県内での新型コロナ感染拡大中に起きた。避難所の感染防止策や情報提供など、複合災害対応についての対策は。

6. 今後の教育政策について。(1) 新型コロナ感染拡大により休校が続いた。今後も臨時休校がないとは言えず、臨時休校に関連した学習対策が課題であると考えます。各家庭のP Cの数やインターネット環境、端末、回線等、オンライン環境の調査把握はしているか。(2) 家庭学習のための通信機器の整備支援が必要と考えるが見解を求む。

7. ドローン活用で様々な課題解決を図れ。(1) 全国でドローン活用により、あらゆる課題解決が図られている。施設等インフラ点検や家屋調査、不法投棄対策など、災害時だけではなく様々な場面で効果が期待できると考えるが見解を伺います。以上、答弁をお願いいたします。

○議長 知念富信君 副町長。

○副町長 国吉真章君 質問事項1点目の新型コロナウイルスにどう向き合うか。(1)についてお答えします。現在、在宅勤務でのテレワークについては、個人情報等、セキュリティの観点から慎重に検討する必要があると考えております。また、関係機関とのリモート会議について検証等を行っており、環境整備を検討しているところであります。ペーパーレス化については電子決済の実施や会議室に会議用パソコンを配置し、ペーパーレス化の推進を行っております。さらに、住民からの申請については、オンライン申請(電子申請)を推進することにより、ペーパーレス化や人との接触を回避できると考えております。

(2)についてお答えします。経済対策については、現在、雇用関係や中小企業・個人事業者への支援、地域消費促進事業の4事業を行う予定です。生活福祉支援では、児童扶養手当受給世帯への町独自の給付金を予定しています。今後も国庫二次補正を活用して支援策等の検討を行ってまいります。

質問事項2点目の情報提供についてお答えします。順次(1)①から③までお答えします。

①L I N E公式アカウント登録者数の目標は、1万7,000件としております。②A Iチャットボットについて、現在、専用システムの内容等について調査を行っております。また、L I N Eアプリの機能の活用も含め、引き続き調査・検討を行ってまいります。③経済産業省の支援策、持続化給付金等については、電子申請の操作説明を動画でも行っております。町のホームページからも持続化給付金申請手続へリンクできるようになっています。町独自の給付金等においてもできるだけ簡素な手続で迅速な給付、支援ができるよう、ホームページで分かりやすく説明案内を行ってまいります。

質問事項3点目、LINEやスマホ納税の導入についてお答えします。LINE Payなど、スマートフォンのアプリによる納税については、個人情報の取扱いや納付手数料など、運用経費等について引き続き研究してまいります。

質問事項4点目、AI、RPA導入で業務効率化を図れについてお答えします。AI、RPAの活用については調査研究しているところであり、実証実験として、子ども・子育て支援業務の還付業務の一部を処理しております。導入効果については、1件当たりの処理速度が速くなることや、自動で処理を行うことができるため、業務効率化に効果があると考えます。

質問事項5点目の複合災害への対応を問うの(1)についてお答えします。今年度は宮平川の一部区間において、草木や堆積土砂の除去作業を予定しております。次年度以降も同様に取り組んでまいります。

(2)についてお答えします。感染拡大対策として、ソーシャルディスタンスの確保や体調不良者の部屋、または避難所を分ける対応を実施する必要がある、より多くのスペースが必要となるため、一時避難所等も活用し、長期間生活できるスペースの確保を検討しております。

質問事項7点目のドローン活用で様々な課題解決を図れについてお答えします。災害時等におけるドローン活用において、民間事業者と協定を締結しており、被災状況の把握、被災者捜索活動の強化を図っております。今後は先進地等の情報集を行い、災害時だけでなく様々な活用法を調査いたします。

○議長 知念富信君 教育長。

○教育長 新垣吉紀君 質問事項6点目の今後の教育政策についての(1)についてお答えいたします。各家庭でオンライン学習ができる環境については、現在、調査中でございます。

続きまして、(2)GIGAスクールの交付金を活用して、将来の1人1台PC端末整備に向けて取り組んでまいります。

○議長 知念富信君 4番 石垣大志議員。

○4番 石垣大志君 ありがとうございます。それでは順次、再質問をさせていただきたいと思います。大きい1番の新型コロナウイルスにどう向き合うかという部分でございますが、昨日も先輩議員からいろいろ質問があったと思います。この新型コロナウイルスとどう向き合っていくか、共存をどう考えていくかというのが各メディア、報道機関等からアフターコロナだったり、ウィズコロナだったり、そういう横文字が頻繁に出てくるわけでございます。ただ、コロナウイルスと一緒に生活をしていく、新しい生活様式とか、そういうことをこれからまちづくりも含めて考えていけないという思いから、今回質問をさせていただきます。

再質問をさせていただきたいのですが、1番の答弁の中で、第2波、第3波を見据えた対策も行いながら、個人情報等、セキュリティ一面は慎重に検討して取り組んでいくとい

う理解でよろしいですか。テクノロジー等、活用をしていくと。ただ、セキュリティ、個人情報等の部分は慎重に検討しながら進めていくという考えでいいか、お聞かせいただきたいと思います。

○議長 知念富信君 企画財政課長。

○企画財政課長 与那嶺秀勝君 そのとおりでよろしいです。

○議長 知念富信君 4番 石垣大志議員。

○4番 石垣大志君 ありがとうございます。それでは(2)ですが、3月、4月、5月のコロナウイルスのこれまでの流れを振り返りながらお話をさせていただきたいと思います。4月の中旬頃、コロナウイルスの影響を受ける事業者の方々のお話を伺ってまいりました。4月中旬、当時は一律10万円給付の発表はあったんですが、申請がまだできないような状況でございまして、これは10万円給付に限らず、持続化給付金であったり、各種国・県の支援給付金に関しては申請ができない状況で、申請ができるのは産業振興課からございましたセーフティネット保証4号とか、国庫の資金繰り支援、資金確保等、あと従業員への雇用調整助成金とか、社協の緊急小口支援金とか、小学校の休業の助成金とか、こういう申請ができるものが限られていたということを記憶しております。当時の雇用調整助成金に関しても、申請が非常に煩雑ということが先輩議員からもございましたが、実質、社労士にお願いをしないと申請が通らない。例えば小さい居酒屋とかでは社労士などを雇うこともできないし、時間もないという中で、従業員への給料を支払うことができないという部分で頭を悩ませていらっしゃったというふうに記憶しております。この資金繰り支援に関しても、全ての方が通るわけではなくて、対象から外れてしまう方々、そして審査をする前に、「どうせ私は通らないよ」と諦めてしまう方々だったり、本当にいろんな方々が悩んでいた4月の中旬頃だったと記憶しております。持続化給付金に関しては、申請の開始が5月1日だったかと記憶しております。沖縄県の事業においては、飲食店への10万円の給付、感染症対策緊急支援金の申請開始が4月30日だったと記憶しております。この4月上旬から4月30日、そして5月1日までの1か月間の資金繰りに事業者の方々は本当に頭を抱えて、どうしていけばいいかというような思いでずっと情報を探していたという状況だったと認識をしております。そのような状況の中で、特別定額給付金に関しては、南風原町はいつになるのかという発表がまだない状況の中、皆さん、心配があった中、5月下旬を予定するという最初の報道が出たと思っております。その後、5月12日頃ですか、ホームページ上で給付のスケジュールを発表できた。この部分は事業者の方々からすると、本当に救いの手が差し伸べられたという印象を持っております。給付金は何月何日までには入るという情報がないで、経営的にも対策が打てるわけです。いついつまでにお金が入ってくるのであれば、借入れして入ったときに返そうとか、そういう情報があれば打てる対策、なければ対策が打てないというような中で、やはり情報提供の重要性というのはこういうところから出てくるのかなと感じました。加えて、特別定額給付金、今回の南風原町の評価すべき部分として、5月15日に申請書の発送予定であったんですが、結果と

して1日早い14日に申請書の発送ができた点、この部分も救われた点だったと考えております。特別定額給付金に関し、本町職員の尽力に改めて感謝を申し上げたいと思います。今後の第2波、第3波への対策、そしてコロナによる影響を少しでも抑えられるように、今後の第2波、第3波に関してもスピード感、そして早い情報提供が求められてくると思います。

そこで質問したいのですが、答弁の中にもありました二次補正の部分で、再度コロナ対策として支援ができると考えますが、今の感染者ゼロの状況がずっと続いたとして、二次補正の支援策が決まったと。本町の支援策が決まったその後に第2波が来てしまったというパターンを想定すると、この求められている支援と提供する支援が一致しない可能性があると思うんですが、その辺は柔軟に支援策への対応ができるのかどうか、その辺をお聞かせいただけたらと思います。

○議長 知念富信君 企画財政課長。

○企画財政課長 与那嶺秀勝君 お答えします。臨時交付金は新型コロナウイルス感染症への対応として効果的な対策であり、地域の実情に合わせて必要な事業であれば、地方公共団体の判断により本交付金を活用することが可能ということで、事業もそれに合った事業の変更等を考えております。

○議長 知念富信君 4番 石垣大志議員。

○4番 石垣大志君 変更ができるということは、柔軟に対応できるという理解でいいですか。ありがとうございます。

続いて、次に移りたいと思います。大きい2番の情報提供について、LINEの話でございますが、登録者数の目標が1万7,000人とございます。ちょうど昨年の6月定例会でLINEアカウントが開設されたという答弁をいただいて、現在、無料でやられていると認識をしております。その中で先日議員から質問もありましたが、現在1,200人という中で、1年前は50人だったと記憶しております。それから1,200人に増えた。それで予算もかかってないというのであれば、私的には評価すべき点なのかと考えております。やはり登録者が多ければ多いほど、緊急時の情報提供に高い効果があると考えております。今後も登録者の増を目指していただきたいと考えております。

2点目のAIチャットボット導入にも関連しますが、他の市町村の登録者数、ちょっと調べてみたんですが、南風原町は1年前は50名でした。そこから1年後、1,200名。糸満市、1年前473名、現在1,201名。西原町、1年前1,928名、現在2,097名。那覇市、1年前4,987名、現在6,964名。沖縄市、1年前4,506名、現在8,519名。うるま市、1年前9,956名、現在1万5,233名となっております。何が言いたいかというと、糸満市に今近づいていると。400名近くの差があったが、糸満市の1,200名に近づいているという状況は評価できるのかと思っております。沖縄市とうるま市に関しては、4,000名増、5,000名増と倍以上伸びているわけでありまして、LINEアカウントを有効的に活用しているところは伸びていて、有効的に活用していないところは伸びていないというのが、このデータから見

て分かると思っております。加えていうと、沖縄市、うるま市はA Iチャットボットを導入しております。この機能をうまく拡大、拡張していくと、L I N Eアカウントの登録者数も増えていくのかなと印象を持っております。一番伝えたいのは、今から登録者数の増加に向けて取り組むことによって、また今回のコロナのようなことが起きたときに、こういう登録者数がいっぱいいるところはL I N Eアカウントが生きると思っておりますので、その辺は是非考えていただいて、今後1万7,000人の目標達成に向けて取り組んでいただけたらと思います。

一つだけ質問したいんですが、1万7,000人の登録者、目標を掲げておりますので、この目標達成に向けてどのように取り組んでいくか、答弁をいただけたらと思います。

○議長 知念富信君 総務課長。

○総務課長 新垣圭一君 現在が1,200人ですので、しっかり取り組んでいかなければいけないと考えております。特に今回、コロナ関連の情報を積極的に、L I N Eを活用して情報提供をしまいいりました。今、議員から提案がございましたように、先進の沖縄市、うるま市、そちらのほうもしっかり調査しながら、本町でも活用できる部分は取り組んで、登録者が増えるよう取り組んでまいりたいと考えております。

○議長 知念富信君 4番 石垣大志議員。

○4番 石垣大志君 ありがとうございます。ちょっと勘違いしてほしくないのが、今回の3月、4月、5月までの南風原町の情報提供の仕方は、私、ホームページも随時見ておりましたし、その点いろんな支援制度の情報をすぐホームページにアップしているところも確認しておりますので、その辺は勘違いしていただきたくなくて、今後の第2波、第3波に向けてこれから取り組んでいくことが、後々緊急時のときに生きてくるという理解をしていただきたいと思います。

参考として、今回のコロナの件で厚生労働省、経済産業省の支援策を、L I N E公式アカウントを活用して分かりやすくまとめるといいますか、まとめて分かりやすく国民に届けるという観点から、L I N E公式アカウントを活用しております。この辺も参考として見ていただきたいと思います。

課題といたしましては、今回のコロナもそうですが、支援制度がいっぱい出てくると。そうなってくると情報が過剰になってくるわけです。情報が過剰になってくると、情報整理が今後は必要になってきて、情報が過剰になってくると分かりにくくなる。なので、情報の整理と分かりやすさという部分を今後の第2波、第3波に向けては取り組んでいただきたいと考えております。

3点目ですが、Y o u t u b e等、動画を活用して説明案内をすることで、制度の理解が活字よりも効果があるという部分でございますが、この辺も各省庁、厚生労働省、経済産業省、持続化給付金等も動画をY o u t u b eにアップロードして、動画で説明をすることで制度の理解を深めるというやり方をやっております。ですので、南風原町も動画チャンネルがありまして、一つ申し上げたいのは、読み聞かせ動画がアップロードされてお

りました。あれを拝見すると、とてもクオリティーが高くて、こういう動画を作れるのであれば制度の理解を深めるような動画、こっちのほうが簡単だと思っております。読み聞かせ動画のほうがレベルは高い。動画をアップロードするというのはそんなに難しくないと思っておりますので、この辺は今後、制度への理解を深めるために活用していただきたいと思います。この辺、ちょっと答弁をいただけたらと思います。

○議長 知念富信君 総務課長。

○総務課長 新垣圭一君 今後もＹｏｕｔｕｂｅを活用して取り組んでまいります。

○議長 知念富信君 ４番 石垣大志議員。

○４番 石垣大志君 ３番のＬＩＮＥ、スマホ納税の導入でございますが、これも前々回の議会で提案させていただきましたけれども、１つ聞きたいのは、外出自粛だったり、感染拡大防止の観点からキャッシュレスという部分も今後プラスアルファといたしますか、課題解決の１つにつながると思っておりますが、最初の（１）の答弁にもありましたが、懸念する部分としては、セキュリティと個人情報の部分、そして収納手数料の部分の懸念点であるという答弁でありますけれども、この２つを解消できれば導入に踏み込めるというような理解でよろしいですか。

○議長 知念富信君 税務課長。

○税務課長 大城あゆみさん お答えします。スマホ決済アプリを現在利用している方においては、いつでもどこでも納付が可能ということですので、利便性は向上すると考えております。あと、議員おっしゃるとおりですが、スマホ決済アプリでは領収証がすぐに発行できないということと、納税証明書等急ぎで必要な場合には、またスマホ決済では対応ができないので、今までどおりの金融機関窓口とか、コンビニでの納付をお願いする必要があることと、あと収納手数料等の費用がかかりますので、この辺、関係部署とも連携して、引き続き検討していきたいと考えております。

○議長 知念富信君 ４番 石垣大志議員。

○４番 石垣大志君 ありがとうございます。難しい部分もあると思いますが、前向きに導入に向けて取り組んでいただけたらと思います。よろしくお願いします。

続いて、４番のＡＩ、ＲＰＡの活用でございますが、これも今回の新型コロナウイルスの感染拡大によって、やはり重要性が増して喫緊の課題になったというふうに認識しております。お聞きしたいのが、ＰＣへの打ち込み作業とか、ＲＰＡを活用した入力業務の効率化の部分は、各課、役所全体に活用できると思っているんですが、その辺をできるかできないのかでお聞かせいただけたらと思います。

○議長 知念富信君 企画財政課長。

○企画財政課長 与那嶺秀勝君 お答えします。ＡＩ、ＲＰＡにつきましては、課の業務の内容等によって可能かどうかという部分が出てきますので、この部分については、各課の判断でＲＰＡ導入について実証事件等をしていただければと考えております。

○議長 知念富信君 ４番 石垣大志議員。

○４番 石垣大志君 何が言いたいかというと、ＲＰＡで業務効率化をすることで職員の時間が生まれるわけでありまして、今回、先輩議員の方々も窓口設置だったり、この制度は分かりにくすぎて対応が必要なのではないかというような質問もございましたし、効率化を進めて、その余った時間を窓口設置の住民への対応だったり、申請を一緒にかけるとかそういう部分ができると思います。やはり業務効率化を進めて、今度は住民に手厚い対応をしていくというのは、これからの課題なのかなと思っておりますので、この辺、ＲＰＡの導入を是非していただきたい。ＡＩの保育所入所審査でしたか、その辺も業務効率化をしていくことで、分かりにくい高齢者への対応だったり、一緒に対応ができるそんな優しい役所になるのかなと思っておりますので、その辺は前向きに導入・検討していただいて、よろしくお願ひしたいと思います。

続いて、５番の複合災害への対応でございます。宮平川を取り組むと書いているんですが、この辺、今年度は宮平川の一部区間。５月の大雨が２回ぐらいあったと思うんですが、山川の部分も氾濫していたと思いますし、津嘉山の部分も好春議員から先日聞きましたけれども、全体的に大雨が多分増えてきているのか、その辺はちょっと分かりませんが、河川の対応をしていくことで、新型コロナウイルス感染症との複合災害の部分も解消できると思っておりますので、この辺、ほかの地域はどうなっていくのか答弁いただけたらと思います。

○議長 知念富信君 経済建設部長。

○経済建設部長 金城政光君 河川の氾濫というのは、宮平川で先日の５月２日の大雨で氾濫しているのは確認してございます。あと、近くの手登根川も氾濫をしてございます。山川長堂川等については、氾濫の情報は得ておりませんが、河川の氾濫ではなくて、道路冠水というのはあちこちで起こっているというのは認識してございます。そういうところについては大体把握しておりますので、この辺は常時パトロールで、その後の対応等はしてございます。

○議長 知念富信君 ４番 石垣大志議員。

○４番 石垣大志君 ありがとうございます。宮平川以外は河川の氾濫ではないという答弁でありました。この複合災害に関しては各議員からありましたが、今後考えていかないといけない課題の一つになってくると思っております。私、個人的な意見でございますけ

れども、最悪の事態を想定して防災対策をお願いしたいと思いますが、新型コロナウイルス関連になってくると、訓練を重ねて実践形式で一つずつ課題を見つけていくということしかできないのかなとも思っておりますし、その辺、どう取り組んでいくかお聞かせいただけたらと思います。

○議長 知念富信君 総務課長。

○総務課長 新垣圭一君 答えいたします。先日もあったんですが、今回の計画のほうにコロナ関連の内容が含まれていないので、今後行動計画等、感染症に沿った計画を立てていかなければいけないということがありますので、その計画をまず作成して、それに基づいた避難所の活用方法も含めて、議員おっしゃるように訓練の方法、計画に取り組んでいきたいと考えております。

○議長 知念富信君 4番 石垣大志議員。

○4番 石垣大志君 ありがとうございます。この課題に関しては、日本全国どの地域も、世界中かもしれないんですけども、みんなが抱えている問題だと思いますので、先進事例、他の市町村、日本全国の情報を集めて対応していただけたらと思います。

続いて、6番の教育の面に関してでございますが、新型コロナウイルス感染拡大によって休校が続いておりました。休校期間の学習環境というものが、今後課題になってくるのかと考えております。1つお伺いしたいのが、オンライン学習とオンライン授業の違いを教えてくださいましたらと思います。

○議長 知念富信君 学校教育課長。

○学校教育課長 宮良泰子さん まず授業につきましては、ふだん先生方が行っている授業を、ICT機器を活用してオンラインでやるようなものをイメージしていただければと思いますが、学習となりますとまた広い意味になりまして、子供たちが家庭に例えばタブレットを持ち帰りまして、eラーニングとかで授業をするようなものについても学習というふうな形で広い意味に含まれると思います。オンライン学習の中には、先生が授業を対面式でやるようなものも含まれますし、教材を持ち帰って家庭で学習、課題等を先生方が配布して、それを子供たちが解いていくとか、そういう形のものも学習という形で捉えていると思います。

○議長 知念富信君 4番 石垣大志議員。

○4番 石垣大志君 今回のコロナの休校の部分で、様々問題はあると思いますが、私個人的には、オンライン授業はするべきだと思っておりました。ただ、オンライン授業のデメリットもあるのかと考えておまして、目の前にいない児童生徒を相手にするという部分では、子供たちの学習のつまずきに気づきにくい点がデメリットなのかなと思っ

おります。ただ、1、2か月休校するとなったときに、1年間の授業日数を考えると、オンライン授業でカバーをしていくということも必要なのかなという意味で、オンライン授業は必要だと思っているわけでございます。今後の方向性として、オンライン授業を考えていかなければならないと思っているのか。この方向性の部分で少し答弁をいただけたらと思います。

○議長 知念富信君 学校教育課長。

○学校教育課長 宮良泰子さん 答えいたします。今後、第2波、第3波に備えてということもありますし、今後の子供たちの学習スタイルとしまして、やはりオンライン授業というのは必要なものになってくると考えます。ただ、オンライン授業のみではなくて、子供たちの学習を保障するために様々な方法で私たちは検討をしてみたいと考えております。

○議長 知念富信君 4番 石垣大志議員。

○4番 石垣大志君 このオンライン授業を行うための環境整備という部分は、今後、方向性としては進めていくという理解でよろしいのか。

○議長 知念富信君 学校教育課長。

○学校教育課長 宮良泰子さん 議員のおっしゃられるとおりです。

○議長 知念富信君 4番 石垣大志議員。

○4番 石垣大志君 ありがとうございます。最後、ドローンの部分でございますが、協定を結ばれているというのは、私もニュースでお伺いしました。ただ、ドローンに関しては様々な場面で活用できると思っておりますので、この点は今後もまた質問をさせていただきたいと思います。人が行けない場所に、操縦をすることによって的確に行けるという利点がありますので、今後必要不可欠な部分になってくるのかなと思っておりますので、この点は他の自治体の事業等を調査していただけたらと思います。また再度、次の議会でも質問をさせていただきたいと思います。5分余りました。以上で終わります。

○議長 知念富信君 休憩します。

休憩（午前10時38分）

再開（午前10時48分）

○議長 知念富信君 再開します。

通告書のとおり順次発言を許します。1番 玉城 勇議員。

〔玉城 勇議員 登壇〕

○1番 玉城 勇君 改めて、こんにちは。まず質問に入る前に、昨今のコロナウイルスの発生により、役場の職員、関係課の皆さんが本当にご苦勞をされて、今沖縄県はもう一月以上発生者がいないという状況をつくっていただきました。本当にお疲れさまでした。感謝申し上げます。さて、それでは質問に入りますが、今日は傍聴者もおりますので、頑張っていきたいと思います。

まず1点目に、道路ハンプ設置についてお伺いします。(1) 南風原町内の多くの集落の生活用道路に安全確保のため道路ハンプの設置を希望しております。前回の質問で、先進地の状況等を把握し検討すると答えているが調査は進んでおられますか。

2点目に、住宅用火災警報器の設置について。(1) 南風原町内の高齢者を火災から守るため、高齢者住宅に住宅用火災警報器を設置する予算処置ができないか。(2) 南風原町内に前期高齢者及び後期高齢者住宅はそれぞれ何軒ありますか。(3) 高齢者で耳が聞こえにくいという方の住宅には高齢者住宅に子機を、隣の協力者宅に親機を設置することもできます。検討できませんか。

3点目、黄金森公園を憩いの場所についてお伺いします。(1) 黄金森公園を情操教育、子供たちや高齢者の憩いの場にするため、ミニ動物園の設置ができないか。(動物はヤギ、ニワトリ、ウサギ、カメ等)(2) 黄金森公園にミニ天文台を設置し子供たちに夢と喜びを与えることができないか。南風原町はウルトラマンの生みの親である金城哲夫氏の出身地でもあります。未知の宇宙に興味を持ってもらう取組になるとと思いますが、いかがでしょうか。

4点目、南風原町に在住する外国人の支援についてお伺いします。(1) 南風原町に在住する外国人で、コロナウイルスによる生活状況の調査や相談等はないか。(2) 生活困窮者がいるのであれば、助成すべきではないか。以上、お答えをお願いします。

○議長 知念富信君 副町長。

○副町長 国吉真章君 質問事項1点目の道路ハンプ設置についてお答えします。近隣市町村の調査の結果、4市町村でハンプを導入しております。設置後、住民の苦情により回収した事例もありました。本町においては、実証の対象となる路線を決定し、ハンプを含め速度抑制に効果のある工法の整備を検討してまいります。

質問事項2点目の住宅用火災警報器の設置について、(1)についてお答えします。平成18年の消防法改正以降、同法の規定及び東部消防組合の条例規定により設置を義務化されていること。新築住宅の所有者は自費で設置していることなどから、町民全体の公平性を考慮すると、町による高齢世帯への火災警報器設置補助金の支出は厳しいと考えております。東部消防からの依頼による住宅用火災警報器の普及啓発の広報については、引き続き協力してまいります。

(2)についてお答えします。前期高齢者、後期高齢者別での把握はしていませんが、65歳以上の高齢者のいる世帯は4,991世帯となっています。

(3) についてお答えします。高齢者で耳に聞こえにくいという方については、聞こえ方の状況を勘案し、それぞれ各自に合う火災警報器を高齢者日常生活用具給付等事業で対応できると考えております。

質問事項3点目の黄金森公園を憩いの場所にの(1)と(2)については関連しますので、併せてお答えいたします。黄金森公園は、基本計画において自然保全エリア、各施設エリア区域区分がされており、その基本計画を基に事業を行っています。動物園及び天文台の計画はなく、また都市公園の補助交付対象事業に該当しないため、整備を行う場合に要する費用は町単独費で行うことになることから、整備は困難と考えております。

質問事項4点目の町に在住する外国人の支援についての(1)についてお答えします。5月末時点で本町に住民登録している外国人は216名、187世帯となっており、そのうち43世帯は日本人世帯主となっています。生活状況の調査は行っておりません。相談については4月に1件あり、社会福祉協議会へ案内をしております。

(2) についてお答えします。住民登録されている外国人の方も、特別定額給付金や生活困窮者に対する住宅確保給付金など日本人と同じ助成が受けられます。多国言語に対応した案内も厚生労働省や総務省、法務省のホームページに載っており、本町でも特別定額給付金について多国言語に対応した案内パンフレットを載せています。また、在留資格が就労や技能実習などに該当している方で、新型コロナウイルスの影響により失業あるいは継続困難となった場合の雇用維持支援もあります。

○議長 知念富信君 1番 玉城 勇議員。

○1番 玉城 勇君 それでは、1点ずつ再質問をさせていただきます。まず道路ハンパ設置の(1)についてでございますが、前回より大分いい回答が出たと思っております。それで、先ほどの回答の中に住民の苦情があって回収したというのがございました。私も調べた結果、与那原町でそういうのがあったとお聞きしました。役場の担当課が申しますのは、ハンパを設置する場合に、その道路の両サイドの住宅の了解をいただくと。了解をいただくのはハンパから両隣3軒、ですから合計6軒の了解をいただいて、町に設置の申請を行うと。町はそれを調査して、工事を行うということになっております。前回の回答にもありましたが、本町で6か所の地域がハンパの設置を希望しております。先ほどの回答においては、実証対象となる路線を決定し、工法を検討していくということになりますが、それからすると宮城が先でしょうというふうに思いますけれども、しかし、南風原町の近隣4市町村が設置をしているということは、もう既にその地域住民の安全のために行政が取り組んでいるということでございますので、南風原町も遅れることなく、交通事故から町民の身を守る。安全を確保していくという意味では、一つの施策だと思いますので、是非これに取り組んでいただきたいんです。ですから、この道路については、是非地域の自治会長と協議をしていただいて、設置場所等、あるいはその地域の行事に支障がないような方法等も一緒に検討していただいて、設置をしていただきたいと思います。南風原町でいいますと、予算的には総務のほうに交通安全対策費というのがございます。交通安全施設設置工事費というのが500万円組まれておりますが、隣の与那原町もその予算を活用して、もちろんカーブミラーもあります。ガードレールもあります。それも設置しながら、

予算の範囲内で毎年ハンプを設置していると。大体2か所か3か所程度が今の状況だと報告を受けました。それで本町として、是非町長にお聞きしたいんですが、ハンプの設置について、できましたら本年度の予算から設置が可能かどうか。あるいは検討していただいて、是非実証地域、路線を相談していただいて設置をお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

○議長 知念富信君 経済建設部長。

○経済建設部長 金城政光君 お答えします。ちょっと勘違いされているところがないかという確認が一つですね。まずハンプというのと、バンプと言っているものがございまして、ハンプは緩い丘、バンプはこぶです。与那原町とかで設置しているのはバンプでして、ハンプではございません。ハンプは国土交通省の設置基準の中で取り扱わないというふうに言っていますので、基本的に私たちとしてはバンプの設置というのは考えてございません。あくまでも設置基準に沿ってハンプを検討していると。緩い丘ですね。その検討をしていきたいと考えております。その設置については、目的というのは速度を落として、住民の安全を守るというのが目的ですので、必ずしもハンプに限らず、速度抑制を検討していくというふうに考えております。近隣のほうでもバンプを設置して、消防のほうから撤去してくれと言われたものもございまして。ハンプを設置したけれども、高いから削ったというところもございまして、この辺も勘案して、地域と相談して検討していきたいというところでございます。

○議長 知念富信君 1番 玉城 勇議員。

○1番 玉城 勇君 町長、後で回答をお願いしたいと思いますけれども。部長、ハンプでもバンプでも何でもいいんですが、とにかく集落内を通過する車両の速度を抑制する。その目的のために設置してほしいと。だから何でもいいんです。今できるもの。今、与那原町や南城市がやっている凹凸のものが、毎年設置されているんです。これについては地域の自治会、あるいは住民の協力をいただければ可能なんです。与那原町は警察署との協議はないとおっしゃっているんです。ですから前回も公安委員会の話もありましたが、そういうことはない。これは与那原町が設置をしますと。要するに行政が設置するわけです。何で名称とかいろいろこだわるんですか。道路を通過する車両の速度を抑制してもらう方法、それを検討して実際に設置してほしいということなんですが、その表現の関係じゃないです。大体想像できますよね。皆さん、調査しましたよね。4か所設置されていると。その設置なんです。これはどうなんですかということです。もう一度回答をお願いします。

○議長 知念富信君 まちづくり振興課長。

○まちづくり振興課長 仲里 明君 答えたいと思います。先ほどの議員からのご質問ですが、担当部署からのご説明がありましており、ハンプ、バンプのお話になってい

るかと思いますが、バンプについては基本的に道路管理者として一番好ましくないものではないかと判断をしております。近隣の市町村はかなり導入しているところもありますが、私たちの調査の中では先ほどおっしゃったとおり、緊急車両の弊害にもなっていると。それから、付近住民からも音がうるさいとか、自動車を運転している方々には心理的な負担が高いという話もあります。今、導入しようとしている自治会もあるかと思いますが、まずはいろんな施策があります。狭窄をして幅員を縮めるとか、いろんな方法もありますので、その辺は地域とまたご相談しながら、もちろん設置に関しては与那原署と協議しながら進めないといけないと思いますので、その辺も検討しながら進めていきたいと思っております。

○議長 知念富信君 1 番 玉城 勇議員。

○1 番 玉城 勇君 皆さんがおっしゃっているハンプというのは、那覇市の小緑にあるような交差点の十字路いっぱい盛り上がったものをハンプとおっしゃっています。与那原町や南城市にあるものはバンプとおっしゃっている。じゃあ、バンプを設置しようという話なんですね。皆さんは交通安全面で好ましくないとおっしゃいますけれども、好ましくないものを与那原町や南城市はやっているんです。皆さんの意見であれば。しかし、地域はそれを要望しているんです。その近隣の住民の了解もいただいているんです。何でそれが好ましくないのか。与那原町は何年間も設置をしてきました。少し移設したのは1か所だけなんです。その理由は…、一旦休憩をお願いします。

○議長 知念富信君 暫時休憩します。

休憩（午前11時07分）

再開（午前11時07分）

○議長 知念富信君 再開します。1 番 玉城 勇議員。

○1 番 玉城 勇君 ですからバンプを設置しても、車椅子とか自転車が通れるように両サイドは空けてあるんです。もちろん車は、ゆっくり走ればボンボンしないです。慣れてくるんです。ドライバーの皆さんも、その場所にこれがあるというのは慣れてくる。緊急車両についてもそうなんです。よく通る道路なんです。生活道路ですから。非常に困っているというのは、その道路を通り抜けに使う車両が多いということなんです。それがなければ地域の皆さんは、そこで車をゆっくり運転するんです。ところが、方言でいうとクンチリミチグラーで、そこを通過するだけの車両がいっぱいあるわけです。そういう車両を抑制しないと、集落内は危ないですよ。そのためにスピードを出しているんですが、本来、集落内は20キロなんです。30キロも40キロも出して通っているんです。だから事故が起ころ前に、今までに自転車の接触事故もありました。人身事故がまだ起きていないから、起きる前に対策をしないと地域は危ないんです。だから生活の安全を守るためにバンプをやっていただきたい。今までなぜそれができないんですか。もう一度、回答をお願いします。

す。

○議長 知念富信君 まちづくり振興課長。

○まちづくり振興課長 仲里 明君 答弁いたします。先ほどからバンプというお話で進めているような気がしますけれども、議員がおっしゃっているところは集落内の町道かなという思いがありますが、これは個々の地域の状況に応じて勾配がきついのか、平坦部なのかということも踏まえてバンプで行きましようとか、あとは狭窄、幅員を縮めて歩行者の確保もしながら、側線を両サイドに引いて、そういう対策はかなり経費も節減できますし、バンプを一旦設置しますと、いろんな苦情に対して金額の負担も大きいわけです。でするので、できたらバンプに捉われずに、何もバンプがだめというわけではなくて、いろいろ抑制効果がある手法がありますので、それを今後私たちも、その希望されている自治会のほうと協議しながら路線を決定していくというふうな方針を持っておりますので、そのようにご理解をお願いしたいと思っています。

○議長 知念富信君 1 番 玉城 勇議員。

○1 番 玉城 勇君 今後やっていくということで捉えたいんですが、確認したいと思います。当初、ハンプ設置について、皆さんはバンプですが。平成28年に城間俊安元町長に質問して、町のほうで工事をしますという回答もあったんです。しかしその後、多分地域からの要望がなかったと思います。その後、6 か所からハンプ設置の要請があるわけです。ハンプとか、バンプとか、言い換えて聞いてくださいね。今、6 か所の自治会から要請がある。まだ増えるかもしれないです。せめて集落内の道路を通り抜けする車両を、通り抜けのための通過ですから、そういう車両を抑制するためにバンプをつけていただきたい。それが今年度の予算で可能なかどうか。先ほど課長がおっしゃったように、方法は幾らかあると思うんです。これにはこだわりません。ただ、標識だけではだめですよ。これまでも何回も標識はやっていきます。スピード落とせとか。そのようにやっていますが、しかし変わらない。だから目に見えるように路面を変えろとか、あるいは障害物を置く。どこかであったんですが、直線道路を少し斜めにしていくとか、いろんな方法があると思います。あるいは滑り止めを厚くして取り付けていくと。皆さん、いろいろと考えると思いますが、その方法については是非設置をしていただきたい。今年度、どう思いますか。

○議長 知念富信君 経済建設部長。

○経済建設部長 金城政光君 多様な速度抑制の方策がございますので、確かにハンプ等、狭窄もそうですが、これは物理的に速度を落とさせる装置ですね。これは今まで南風原町では設置されてございませんので、ハンプも含めて、そういう狭窄、あるいは屈強といって曲げたりする方策もございます。そういうものも一緒に考えて、地域の皆さんとも考えて、速度抑制の対策をしていきたいと思っております。事例は早めに設置していきたいと考えております。

○議長 知念富信君 1 番 玉城 勇議員。

○1 番 玉城 勇君 こういう話を延々とするのではなくて、まず実証してください。設置をすると。やらないといつまでたってもこんな要望だけしか来ないですから、とにかく事故が起きる前にやっていただきたい。町長、是非実証設置の検討について、今年度の予算で設置が可能かどうか。自治会の協議を進めながら、是非お願いしたいんですけれども、いかがでしょうか。

○議長 知念富信君 町長。

○町長 赤嶺正之君 お答えいたします。ハンプの件に関しましては、議員ご指摘のとおり、以前から要請があった件でございまして、町といたしましても、先ほど担当部長から答弁がございましたが、基本的に制度、法の基準、そういうものに沿った形での整備をしたいというのが基本にございますので、先ほどの答弁になったかと思うんですけれども、その辺はご理解をお願いしたいと思っております。今回、4 字ないし 6 字からハンプの整備の要請があったという報告を受けておりまして、やはり地域の皆さんからそういう要望があるのであれば、これはしっかりと検討すべきではないかということを担当部長には指示したところでございます。その中で考えますが、どここの字を整備するのかというようなことがまずありますので、そのあたりも是非区長、自治会長たちとしっかりと調整をしていただきたいと。一遍に 6 か所、7 か所、あるいは 4 か所とか整備するには財政的に厳しいですので、どこか 1 か所を選んで、南風原町のモデルになるような、そういう事業として検討できないかという指示をいたしております。あと一点は、地域の皆さんに、先ほど来、議員からもございますように、ハンプなのかバンプなのか、そういう内容がほとんど周知されてないといえますか、行政として地域の皆さんに出向いて行って説明したかという、そういうことがなかったのではないかと思っております。これは是非丁寧に地域の皆さんに説明をしていただいて、本来だったら町としては緩やかなハンプをやりたいんだけれどもどうですかとか、あるいは地域の皆さんからもいろんな意見をお聞きして、「いやいや、そういうことではないよ」というようなことがあれば、また議論もいたしますし、町民の皆さんにしっかりと映像なども活用して、あるいは必要だったら与那原署にも来ていただいてとか、丁寧な説明が必要ではないかと考えております。

あと一点は、補助事業がないかどうか。町単独事業でやらなければいけないのかとか、そのあたりも含めて今、4 点ほど話しましたが、そのあたりを是非検討してもらって、できれば区長さん方との調整、あるいは地域に出向いての説明会等、そういうものを是非今年度でやってもらいたいということを担当課には指示をしてあります。その後、具体的に事業となると、先ほど申し上げましたように補助事業なのか、町単独なのか、予算に計上されてきますので、そのときにはまた議会のほうでも議論をしていただきたいと思います。

○議長 知念富信君 1 番 玉城 勇議員。

○1番 玉城 勇君 町長、予算的には補助事業がありますよね。与那原町が活用しているように、交通安全対策費が本町も611万8,000円ございます。その中の500万円が工事請負費になっています。これはカーブミラーとか、あるいはガードレール、あるいは修繕等、いろいろやっておりますけれども、その中の500万円の中の予算を一部そこに回してもらうと。これも交通安全施設設置なんです。この事業の中で与那原町はやっています。与那原町は本町よりも予算は少ないんですけども、カーブミラーもガードレールも補修もやりながら、その中に予算を入れて、できる範囲のことをやっていると。ですから毎年やっておりますけれども、2か所、3か所しかできませんと。そういうことなんですが、与那原町にお聞きしますと、この路線は大体30万円程度ではできますということでもあります。ただ、資材屋さんに聞くと、凹凸というのはハンプということなのでカタログには載っているんです。これは高さが3種類あるんです。一番薄いのから中間から、高いのは6センチぐらいとか、要するにどれが一番効果があるかという、総務課かと思いますが、区長会の際に与那原町や南城市を視察してもらうと。実際、そのハンプを設置している場所を見てもらって、自分たちがその上を通ればすぐ分かりますよ。3種類あります。どの高さのものがスピード抑制効果があるのかと。皆さん、そこで30キロ出してみたら分かります。だから是非、総務課長、区長会の際に実際に現場を視察してもらって、できたら自治会長との意見交換をやってもらうとか、是非区長会の会議に総務課長、出席していただいて、確認をしていただきたい。それで了解であれば、早速実証路線を定めて、今年度、その工事をしていただきたい。可能なかどうか、どうですか、課長。

○議長 知念富信君 経済建設部長。

○経済建設部長 金城政光君 500万円の交通安全の施設設置事業ですが、うちのほうとしては、補助事業としては、ハンプの設置は補助に該当しないというふうに解釈してございます。これは今、私どもではカーブミラーを設置したり、転落防止柵を設置したり、あとは道路の側線ですね。そういうものの設置、修繕には使ってございます。うちのほうの解釈としては、ハンプは補助事業に該当しないというふうに解釈しておりますので、与那原町はどのような解釈をされているのか。これは調査していきたいと思っております。

先ほどからおっしゃっておりますが、うちとしては速度を落とすというのが目的ですので、それはいろんな方法を検討して行って、ハンプも含めて検討して、そして早い時期に、今回もしできるのであれば、去年の補正で取った2,000万円の事業がございまして、こういうのも絡めながら、例ができるところがあるのであれば、そういうものもまた検討しながら、この事業では全体はできませんけれども、単費も含めて早めに設置できるように検討はしていきたいと思っております。

○議長 知念富信君 1番 玉城 勇議員。

○1番 玉城 勇君 それでは、与那原町は交通安全対策費から出していますので、与那原町はできています。そうであれば総務課の担当になりますので、そういうお話をさせて

もらいました。今言うように、道路整備事業でやるのであれば、また経済建設部のほう。どこがやるにしても是非担当を決めて、双方で協議していただいて早急に、今の補正予算も活用しながら今年度の設置をしていただきたい。それは約束できますか。工事については。

○議長 知念富信君 経済建設部長。

○経済建設部長 金城政光君 地域とも協議しながらですので、地域の皆さんとも協議して、例えば側線の設置と道路標示の設置を考えていたところを狭窄もできるかとか。それをやるには公安との協議も必要ですので、この辺も含めて検討していきたいと思っております。私たちとしては、狭窄とかハンプというのは補助メニューにないというふうに解釈しておりますので、補助メニューでできる分は補助メニューでやって、できない分については単費の道路維持費とか、そういうものも含めて検討していきたいと考えております。

○議長 知念富信君 1番 玉城 勇議員。

○1番 玉城 勇君 先ほどから申し上げているように、ハンプもバンプも警察との協議は要らないと。ただ、狭窄、道路に障害物を置いたり、狭くしたりするのは、確かに協議が必要かと思います。ですから、どの方法を取るにせよ、早めに協議を進めて設置をしていただきたい。だからバンプの方法、あるいは道路狭窄の方法、そういうのを是非双方で相談して、あと自治会長とも相談していただいて、是非来月の区長会にはそのお話をしていただきたい。お願いします。町長、決まりましたら是非、実施をよろしく願いいたします。

ちょっと時間を取りましたが、次、2点目のほうに移りたいと思います。まず、本町は何か字か独自に住宅用火災警報器を設置したところがあります。しかしながらもう10年を経過しようとしている中で、住宅用火災警報器のバッテリーの寿命が約10年だと言われておりますので、これまで設置した地域はほとんどが今年度、来年度ではバッテリーの寿命が来ます。それから、建築基準法で新築住宅も住宅用火災警報器の設置が義務付けられております。そういうのも10年を過ぎるとバッテリーの寿命が来ますので、もう設置をしなければいけないと。そういうことで今回は高齢者に特化しますけれども、高齢者は行動が遅いというのがございますので、その火災警報器でお知らせするという意味からも、まずは高齢者住宅を優先にして設置をしていただきたいということですが、厳しいという回答もございましたけれども、名護市で消防署が住宅用火災警報器をこのように設置しているんです。毎年設置されて、高齢者を訪問しているという状況がございますけれども、本町としても取り組んでいただきたいということですが、方法としてはないのか。1万6,000世帯もありますから数が多いんですが、その中で高齢者住宅が4,900世帯、約5,000世帯ありますけれども、検討するというのはできないのかどうか。いかがですか。

○議長 知念富信君 総務課長。

○総務課長 新垣圭一君 お答えします。同じ回答になりますが、町の基本的な考えとしては、やはり所有者の自費で設置されるものだとは認識しております。あと、高齢者の世帯ということですが、どうしても支援が必要な方に関しては、先ほど副町長からありました南風原町高齢者日常生活用具給付事業がございます。その中で火災警報器も対象となっておりますので、そちらのほうを活用していただきたいと思いますと考えております。

○議長 知念富信君 1 番 玉城 勇議員。

○1 番 玉城 勇君 今、(3)の回答になっていると思います。確認しますが、高齢者日常生活用具給付事業で対応できるとあるんですが、現在どのような取組がなされているのか。まず設置があるのか、現在の様子を教えてもらえますか。

○議長 知念富信君 保健福祉課長。

○保健福祉課長 大城美恵子さん お答えします。高齢者日常生活用具給付事業は、高齢者に日常生活用具を給付または貸与することによって、高齢者の日常生活の便宜を図り、高齢者の自立支援及び介護予防を促進することを目的とした事業で、この日常用具というものの中に手すりやスロープ等の歩行支援用具、シャワーチェア等の入浴補助用具、腰掛便座、電磁治療器、火災警報器、自動消火器、福祉電話機等があります。現在、実績としては、ほとんど手すりの取付け、シャワーチェアの購入になっております。火災警報器の実績は、過去3年間ございません。

○議長 知念富信君 1 番 玉城 勇議員。

○1 番 玉城 勇君 住宅改修のときに手すりとか、床をフラットにするとかあると思いますが、高齢者住宅の場合に、日常生活用具の中に住宅用火災警報器も入っているというのであれば、それを進めるのはなさっておりますか。予算的にも大きな予算ではないはずなんです。住宅用火災警報器だったら3,000円ぐらいでできます。1世帯2個ぐらいあれば、法的にもクリアするわけです。耳の遠い方には、また4、5倍ぐらいの値段がしますけれども、しかし、それが可能であれば、是非これを進めるべきだと思うんですが、その辺はどうですか。

○議長 知念富信君 保健福祉課長。

○保健福祉課長 大城美恵子さん この事業の対象が65歳以上の虚弱な高齢者で、介護保険サービスを利用されていない方や自立支援、または介護予防の必要性が顕著に見られる方ということで、ちょっと限定されております。あと、所得制限もございます。なので、周知の仕方としては、支援者が高齢者に周知をするという方法を取っています。

○議長 知念富信君 1 番 玉城 勇議員。

○1番 玉城 勇君 まだはっきり理解はできませんが、ただ高齢者に対してそういう事業があるのであれば、是非それも含めて紹介していただいて、設置できるように。高齢者の皆さんの住宅用火災警報器の設置もセットでどうですかと。それを勧めていただきたい。これは1割負担でもできるわけですね。そういうのももし可能であれば、是非やっていただきたい。もしこれが該当しない方であれば、町で何割か助成をして設置してください。要するに65歳以上の高齢者がまだ介護を受ける状況ではないけれども、高齢者に対しては幾らか助成をして設置できますと。そういうのが可能かどうか。もう一度お願いします。

○議長 知念富信君 保健福祉課長。

○保健福祉課長 大城美恵子さん 想定されているのが、物忘れがあつて鍋焦がしとかがあるとかという高齢者とか、全然元気な高齢者に対応するということではなくて、そういう火災を起こすリスクが高くなっているという高齢者とかに支援者が、そういうリスクがあると見立てた場合に、そういう事業を紹介しているということになっています。費用負担については、非課税世帯は利用者負担はありませんけれども、所得によって制限があります。1割負担ではありません。所得の状況によって利用者負担が生じる事業となっております。

○議長 知念富信君 1番 玉城 勇議員。

○1番 玉城 勇君 分かりました。いずれにせよ、高齢者住宅には火災警報器を設置できるような、そういう取組をしていただきたい。皆さん、行政同士の横のつながりもあると思います。名護市がやっていますので、そういうものも参考にして、沖縄タイムスの紙面にも載っていましたので、是非確認をしていただいて、今後の取組を検討していただきたいと思います。

それでは3点目の黄金森公園の憩いの場所についてであります。宮城入り口、与那覇のほうにもヤギを2頭ぐらいロープで結んでいるんですが、特に園児たちがヤギに近づいていくんです。ヤギは逃げないんですね。非常に癒しの場所になるんです。また、うちの仲間である新垣善之議員も住宅でヤギを飼っているんですが、放し飼いなんです。子供たちついていくんです。それは本当に癒しなんです。そういう意味で質問なんです。もし黄金森公園でできないのであれば、花・水・緑の大回廊公園の一部でできないかどうか。どうですか。

○議長 知念富信君 都市整備課長。

○都市整備課長 宮城良武君 お答えします。議員がおっしゃる動物とか回遊とかの場所に関しては、こちらに答弁しているとおり、事業では設置とかはできないんですけれども、今言った動物を一時的にというか、公園内に解放して子供たちの癒しの場にということで

聞いてはいるんですが、そうなってくると管理人とか、動物のふんとか、施設内の事業で整備している場所に動物を監視する人だったり、きちんと体制を整えないといけないというのがある、ちょっと困難かなということで答弁しています。

○議長 知念富信君 1 番 玉城 勇議員。

○1 番 玉城 勇君 今の心配をクリアするようにボランティア制度がありますので、そういう方に声かけをしたら、できるという方も何名かいらっしゃいます。そういう意味で可能であれば、那覇空港自動車道の桁下の花・水・緑の大回廊公園においても、是非できる方向で検討していただきたい。もし、そういう方々がいらっしゃったら可能かどうか。

○議長 知念富信君 経済建設部長。

○経済建設部長 金城政光君 動物園の設置というのが、今どういう基準というか、この辺の勉強もまだ私たちはやってございませんので、先ほど言いましたとおり、補助メニューにはございません。確かに単費でやるということであれば、これは可能ではございます。ですけれども、それを設置するに当たって、例えば先ほど課長が言っていたように、どういう人員が必要とか、衛生面もありますし、そういうのに体制もどういふのが必要かということも、今私たちは分からない状況ですので、この辺はもう少し勉強させていただきたいと思います。

○議長 知念富信君 1 番 玉城 勇議員。

○1 番 玉城 勇君 是非検討していただいて、園児や児童生徒の憩いの場所になります。お年寄りと一緒に、本当に憩いの場所になりますので、それを是非検討していただきたいと思います。

それから、天文台についても同様なんです、宮城の個人の住宅に天文台を設置しているんです。住宅用のものですね。夏休みには子供たちを集めて、天体観測をさせています。それを黄金森公園、あるいは別の場所に設置できれば、町内の子供たちを集めてできますので、これを質問しています。これについてもどうでしょうか。

○議長 知念富信君 経済建設部長。

○経済建設部長 金城政光君 先ほど課長からもございましたとおり、天文台につきましても補助メニューにないということで、大変財政面でも厳しいところではございます。それと、黄金森公園ということになりますと、天文台はやはり山頂付近ということになるのかと思いますけれども、実は山頂付近というのは黄金森壕群という文化財にも指定されております。そして、地滑りがかなりあるところもございますので、建物の設置というのはあまり好ましくないというふうに考えております。可能な方法としては、例えば天文台というよりは展望台のようなものを設置して、そこで望遠鏡を持ってきて観測するとか、こ

ういふもののほうが現実的ではないかと考えております。小規模の展望台ということであれば、可能性はあるのかと考えております。

○議長 知念富信君 1 番 玉城 勇議員。

○1 番 玉城 勇君 小さい展望台の話ですが、住宅の屋上にできるような天文台があるんです。部長がおっしゃったように、品質のいい望遠鏡かと思えますけれども、そういうのを那覇空港自動車道の残地に設置をするとか、そういうのは可能であると思うんです。この辺は是非、そこも検討できないかということなんですが、もう一度お願いします。

○議長 知念富信君 経済建設部長。

○経済建設部長 金城政光君 先ほども言いましたが、天文台は建物ですので、その設置は事業上の問題、そして文化財とか、あるいは地滑りの問題もあって大変困難だと考えております。ですけれども、展望台であれば、設置としては計画上もさほど問題とならないと考えております。ですから天文台ではなくて、あそこは山頂もそんなに広くないので、小さい展望台が設置されて、そこで天体観測をするというふうなものは可能ではないかと考えております。

○議長 知念富信君 1 番 玉城 勇議員。

○1 番 玉城 勇君 まず、そういう方向で、第1 回目は黄金森公園で集めてやってもいいですので、是非その方向でやっていただきたいと思います。終わりますので、よろしくお願いします。

○議長 知念富信君 暫時休憩します。

休憩（午前11時44分）

再開（午後 0 時58分）

○議長 知念富信君 再開します。

通告書のとおり順次発言を許します。12番 赤嶺奈津江議員。

〔赤嶺奈津江議員 登壇〕

○12番 赤嶺奈津江さん こんにちは。12番 赤嶺奈津江です。一般質問最終日、ラストになりますので、よろしくお願いします。質問に入ります前に、新型コロナウイルスで亡くなられた方のご冥福をお祈りいたします。また、医療関係者をはじめ、国民生活を支えるため頑張ってくださっている多くの方々に感謝申し上げます。そして、町職員におかれましても、経験したことのないような状況の中で業務を滞りなく執行するため様々な取組、

また特別定額給付金の早期給付に向け、最大限の尽力に感謝いたします。まだまだ世界的に収束を迎えていない新型コロナウイルス感染症です。第2波、第3波が予想されておりますので、現段階でどのような対策を考えているか、最初に伺っていきたくと思っています。それでは一般質問に入らせていただきます。最初に一括で質問した後、再質問から一問一答でお願いいたします。

1. 新型コロナウイルス対策について問う。(1) 新型コロナウイルスの影響により、経済活動に大きな影響が出ている。本町における法人関連の税収に影響が出てくると考えられる。町財政運営にも影響が出てくると考えるが、今後の財政運営をどのように考えているか。(2) 今回の新型コロナウイルス対策で、南風原町地域防災計画の中で見直し、修正予定はあるか。(3) 北海道や北九州市などでは既に第2波が来ている。今後、県内でも第2波、第3波が予想されているが、学校休校時に向けた学習体制を早急に整えるべきと考える。オンライン授業の導入に向け、環境整備も含め、取り組むべきだと考えるが本町としての見解を伺う。

2. コロナウイルス対策等でオンライン医療相談活用を。(1) 9月末まで無料相談できる国の補助事業を活用した「遠隔医療相談事業」のサービス等がある。今後の国保医療費やこども医療費の抑制にもつながると思う。導入を検討してはどうか。

3. 町道の維持管理及び再整備計画について。(1) 近年、ゲリラ豪雨などの集中豪雨で道路の冠水が見られる。住宅地の整備などで、表面水の増加による影響も大きいと考える。そこで、雨水排水路の維持管理(管内掃除等)も含め、再整備計画の状況はどうなっているか。(2) 雨天時、排水溝の蓋やグレーチングが外れたりして危険な箇所はないか。以上、お願いします。

○議長 知念富信君 副町長。

○副町長 国吉真章君 質問事項1点目の新型コロナウイルス対策について問う。(1) についてお答えします。これまで堅調であった税収に影響が出ますと、より厳しい財政運営になることが想定されますが、町民福祉サービス等の低下を招かないよう、最優先事業から予算配分を行っていきます。また、今後の地域活性につながる事業については、国・県の補助や交付金などを活用しながら実施できるよう、検討をまいります。

(2) についてお答えします。新型コロナウイルス対策における課題や問題点から、今後計画の見直しや修正を検討してまいります。

質問事項2点目のコロナウイルス対策等でオンライン医療相談活用についてお答えします。先進事例等、調査研究をして検討してまいります。

質問事項3点目の町道の維持管理及び再整備計画について、(1) についてお答えします。雨水排水路の維持管理については、地域の協力による清掃とパトロール等により状況を把握し、堆積物等の除去作業を実施しております。再整備につきましては、対策の必要な箇所について検討してまいります。

(2) についてお答えします。台風、豪雨時における道路施設については、状況把握のためパトロールを適宜行っています。町道排水溝の蓋やグレーチングの外れがある箇所は、適宜修繕しております。

○議長 知念富信君 教育長。

○教育長 新垣吉紀君 質問事項1点目の(3)についてお答えいたします。GIGAスクールの交付金を活用して、将来の1人1台PC端末整備に向けて取り組んでまいります。

○議長 知念富信君 12番 赤嶺奈津江議員。

○12番 赤嶺奈津江さん ありがとうございます。それでは、再質問させていただきたいと思います。1の(1)ですが、町財政運営のほうにも、これから税収等が減ってきたり、影響が出てくると。大変なことになるという見解であります。法人だけではなく、実質は個人の税収からも影響が出てくるとも考えられますので、今後どのような方策を打っていけるのか。また、事業等も精査して、今でも取捨選択ではないですが、やらなければならないこと、優先事項から先にといいことでやっていますが、実際やるべきこととしてやってきたこともできなくなる可能性も出てきます。その中で国の補助事業とか、コロナの影響ということで見送ってきた事業も含め、新しく補助メニューが出てきたりとか、そういう可能性もないとは言えないと思うんです。今の状況から言えば、町の運営の中で新しい事業メニューが出てきたり、そういうときにはやはりやるべきこと、また、できることを少しずつでも進めていってほしいと思います。今回、二次補正が国のほうでも決まって、今後、こちらのほうからも要望等が出てくるとは思いますけれども、実際、1回目の要望を出してもちょっと見送ったものもあったと思うんですが、再度出すものとして、またプラスして事業を検討していると思いますけれども、事業所とか、個人へのもの以外に町独自でも使えるメニューといいますか、これまでやっていた事業に充てられるものも出てくるのかどうか、その指針とかが分かれば、教えていただきたいと思います。

○議長 知念富信君 総務部長。

○総務部長 宮平 暢君 それでは、お答えいたします。現在、国の二次補正予算において、地域再生臨時交付金の2兆円の予算が確定しました。それに向けて、我々は交付額とかを待っているところでありますが、まだ情報がない状況であります。しかし、各課には、全部署において事業計画を立てるようということで、企画財政課を通して準備をしているところです。この交付金については、新型コロナウイルス感染症防止対策、その後の経済対策ということを中心に、喫緊の課題について対応していきたいと考えています。ただ、これまでやっていた事業、是非やらないといけない事業があれば充当は可能ですが、できるだけ従来やっているものに充てるのは、その後ということで、新型コロナウイルス感染症に及ぼす地域経済、住民生活の対応を最優先に活用してまいりたいと考えております。

○議長 知念富信君 12番 赤嶺奈津江議員。

○12番 赤嶺奈津江さん 実際、優先事項ということが出てくるとは思います。(2) つな

がるんですが、地域防災計画の中で、現在は地震があったときとか、台風時とか、その中において感染症の対策というふうになっているんですけども、逆に感染症が今みたいに主となったときに台風が来たと。そういうときにどのような対策を取るのか。そういうところも研究しないといけないわけですし、そういうところにまた物品の配置とか、新たなものが出てくると思うんです。仕切りだったり、個人のプライベートを守るための、海外とか、県外でもありますが、テントだったりいろんなものがあると思うんですけども、そういうところも見直しとか、従来もともとあったものを再度検討して、この中に入れていこうという部分になってくると思うんです。今後、南風原町だけではなくて、沖縄県は台風の時期に入ってきていますし、早めにやらないといけないことだと思うんですが、今、学校が避難所として決められていますよね。一時も広域も収容もということでやっていすけれども、収容場所として学校の中のどこを考えて、どういう物品を配置しているのか聞きたいと思います。

○議長 知念富信君 総務部長。

○総務部長 宮平 暢君 学校等、町内には13か所の収容避難所があります。そちらにおいては、特に各自治会とか、ちむぐくる館には備蓄品を用意していますが、学校にはまだ置いている状況ではありません。しかし、これから避難所となる場合は、また計画的に備蓄品等を検討していきたいと思いますが、ただ学校となると場所、置くのは一義的に教育環境のものに限定しますので、それについてもどんな手だてがあるか検討をしていきたいと考えております。ただ、奈津江議員がおっしゃるように、もう台風時期に入ります。ですから防災計画の見直しはやっていきますが、見直しの前に実際、台風の来襲によって避難が生じることがありますので、内部のマニュアルは早急に整備して、どう対応していくべきか検討して、早急にその災害、台風時に備えるように準備してまいりたいと考えております。

○議長 知念富信君 12番 赤嶺奈津江議員。

○12番 赤嶺奈津江さん すみません、休憩で。

○議長 知念富信君 暫時休憩します。

休憩（午後 1 時10分）

再開（午後 1 時10分）

○議長 知念富信君 再開します。
総務部長。

○総務部長 宮平 暢君 それは災害の規模によって、まずは体育館。しかし、大きくなったり、コロナウイルス感染症対策を取るために個別となった場合は教室とか、学校全体

として、その災害に応じて確保していきたいと考えております。

○議長 知念富信君 12番 赤嶺奈津江議員。

○12番 赤嶺奈津江さん ありがとうございます。実際、夏場に入ってきて、今、多分体育館がメインということでおっしゃっていましたが、体育館はクーラーもなければ、日々生活する中でも子供たちは暑い中でやっていて、窓を全開にしても暑いぐらいですから、最初から教室を前提に動いたほうが私はいいと思っています。この防災計画の中で感染症があった場合ということで話はしていますけれども、教室はせっかく空調も揃っていますし、教室であれば4つに仕切ったりとか、家庭ごと、具合が悪い人ごと、いろんなパターンで設定できると思うんです。1か所、一棟区切ってとか、いろいろやり方はできると思うので、そういう方向で考えてほしいんですけれども、いかがでしょうか。

○議長 知念富信君 総務部長。

○総務部長 宮平 暢君 これは災害に応じて対応していきたいと思います。通常によくある台風において教室をやってしまいますと、すぐ台風が去って授業が始まりますので、それが可能かどうかもありますので、災害の内容によって、どこを使うのが最優先か検証していきたいと考えております。

○議長 知念富信君 12番 赤嶺奈津江議員。

○12番 赤嶺奈津江さん ありがとうございます。体育館ではなくて多目的ホールみたいなところとか、教室でもいろいろありますよね。授業で使う1組、2組とか、そのクラス単位の教室ではなくても音楽室だったり、あそこであれば防音もありますし、いろんなパターンが考えられますので、できるだけ私は空調が整備されているところを前提に、急に暑くなって熱中症になったら元も子もないですし、医療にかかろうと思っても、台風の中、なかなか行けないですよね。いろんな災害の中では消防もかなり多忙の中で、せっかく避難した場所からまた救急搬送ということも大変だと思いますので、是非それは検討の中に入れていただきたいと思います。また、せっかく子供たちは訓練をやる機会もありますし、こういうときにはこういう活動ができるとか、行動ができるとか、そういう考える場所にもなると思うんですね、避難訓練の場所は。学校に避難した場合にはこういうことができるとか、自分たちの役割はこういうこともできるとか、検証もできると思うんです。ですので、ただ逃げるだけとか。火災時に学校から逃げるのではなくて、学校に避難したときに、学校で自分たちができることを考える機会にもなると思いますので、そういうことも含めて検討してほしいと思いますが、いかがでしょうか。

○議長 知念富信君 総務部長。

○総務部長 宮平 暢君 避難する場合は、避難するだけでストレスがかかります。快適

とは言えませんが、よりストレスがかからない避難場所を構築していきたいと考えています。また、防災訓練とか、その準備については、あらゆることを想定して対応していきたいと考えています。

○議長 知念富信君 12番 赤嶺奈津江議員。

○12番 赤嶺奈津江さん ありがとうございます。県外では高校生とか、そういう子たちを中心に避難場所で一泊するということで、ご飯をつくる。眠る場所を確保する。お年寄りとか高齢者にどう接するかというところまで検証したことをニュースで見ることがあります。以前にも議会でも話をしたんですが、そういうことも含めて、ただ避難するだけでは生活はできないので、そういうときにどういう行動が必要になるかということも、やはり検証しないといけませんので、自助・共助・公助、それぞれ役割分担があるということで前からおっしゃっていますように、それぞれを考える場所として提供していくと。それも計画に入れていくというふうにやっていただきたいと、こちらのほうは要望したいと思っています。

(3) オンライン授業の導入ということで、1人1台PCということですが、自宅にいるときの環境確認ということで、高校生のほうは、うちの子の学校だけなのかは分からないんですが、Wi-Fiの状況、インターネットの接続状況とか、そういうのも全部確認がありました。小中学校のほうでもそれをやって、電波がどうなのか。その契約状況とか、ある程度保護者に確認をとらないと、パソコンを渡したり、タブレットを渡してもつなげられないとか、そういうことがあったら意味ないと思うんです。そういうところの確認をやっているのか、今後やる予定があるのかお伺いしたいと思います。

○議長 知念富信君 学校教育課長。

○学校教育課長 宮良泰子さん お答えいたします。今回の休業を受けまして、教育委員会のほうでも学校を通して、インターネット環境について調査を行って、今アンケートを収集して集計しているところでございます。

○議長 知念富信君 12番 赤嶺奈津江議員。

○12番 赤嶺奈津江さん ありがとうございます。今、情報収集中ということでありますが、もしインターネットの環境等、接続できないとか、実際、うちの自宅のほうも今つながりてはいますが、普通の電話の電波とか、ネットの電波が入りづらいんですね。そういうところからすれば渡されても、今は自宅にあるからいいですけども、もしなければなかなか接続できないとか、接続している途中で切れるとか、いろんなことが考えられるので、できるだけそういうハード面の整備も今後視野に入れていかないといけないのかなと思いますが、パソコン、タブレットを渡すだけではなくて、そこまで考えているかどうかお伺いしたいと思います。

○議長 知念富信君 学校教育課長。

○学校教育課長 宮良泰子さん 今、環境については調査を行っているところでありますが、その結果の内容等を見ながら、またどのような補助金があるかということを確認して、検討してまいりたいと思います。

○議長 知念富信君 12番 赤嶺奈津江議員。

○12番 赤嶺奈津江さん ありがとうございます。実際、県のほうが全県にW i - F iということで、現知事がおっしゃっていたようにやる予定でいらっしゃると思いますので、これはまた県に要望することとしてもやっていただきたい。町だけ独自でやったら、また予算のかかることですし、県がやると言っていた部分でもありますし、各地域で教育格差が生まれてもいけませんし、情報格差が生まれてもいけないという前提であれば、やはり単独で町が動くのではなくて、近隣市町村も含め、要望をしていくべきだと思いますけれども、そういう点では近隣市町村連携してやっていけるのか、意見交換も含め、どのように考えていますでしょうか。

○議長 知念富信君 教育部長。

○教育部長 金城郡浩君 そういう機会があれば、是非近隣市町村とも話合いをして、そういう機会を生かしていきたいと思います。

○議長 知念富信君 12番 赤嶺奈津江議員。

○12番 赤嶺奈津江さん ありがとうございます。実際、島尻では島尻で教科書を決めて、高校受験のときにはその科目が出てくるという前提で動いていますし、その時期に勉強のできない学校があつては教育格差で不利益を被る子供たちが生まれるわけですから、そういうところでは情報交換をする。島尻教育事務所を通してでも、是非意見交換をしていたいただきたいと思います。また、タブレット等についても早期にやらないと、いつ第2波、第3波が来るかも分からないですし、それ以外の感染症だったり、外出できない環境とかが生まれてこないわけではないと思いますし、以前にもS A R Sが流行ったときのこともありますので、何年かに一回、こういうことが起こり得ると考えれば、これが早いのか遅いのか分からない状況ですので、早期に対応していただきたいと思います。

大きい1番は終わりました、次に2番目のほうに行きたいと思います。今回、質問をする前に民生部のほうには資料を提供して、医療相談アプリの情報を提供しましたが、先進事例を調査検討していきますというのですが、実際、この事業が9月末までしか無料ではないということもあって、なかなか難しいとは思っているんですけども、医療費抑制だったり、子育て世代からすれば、夜中からの発熱とか、病院の情報とか、ただ、電話するよりも行ったほうがいいのかと悩むときに、そういう相談アプリがあるとかなり役立つと思うんですが、実際、町として医療系のアプリ、それ以外の子育てとかについてもです

が、どのようにお考えなのか。検討をしているとか、うちには必要ないと思っているのか、必要と思っているのか。どのような検討をしているのか、お伺いしたいと思います。

○議長 知念富信君 民生部長。

○民生部長 知念 功君 お答えします。まず、議員御提案のありました遠隔医療相談に関しましては、議員おっしゃいますように、我々も近年のＩＣＴ技術等の発展で、そういう技術を活用しての遠隔医療も含めて、相談も含めて取り組んでいく必要があるというふうな認識でございます。以前からも医療の相談も含めて、また子育ての支援も含めて、いろんな悩みを抱えていて、おっしゃいますように夜中の急な発熱とか、どこに相談したらいいのかとか、そういうときにすぐ気軽にアプリを活用しての相談というのは、やはり今の時代必要だなということを、我々も検討していかなければいけないというのは以前から申し上げているところでございます。全体的に子育ての支援も含めて、そういうＩＣＴ技術を活用した町民の方の相談、健康相談等をやりやすくする環境を整えていきたいと考えています。

○議長 知念富信君 12番 赤嶺奈津江議員。

○12番 赤嶺奈津江さん ありがとうございます。実際、茨城県のほうが全県下で導入して活用しているということで、環境が違うということも聞いてはいるんですが、やはり相談相手がお医者さんというだけでも判断しやすい。実際、私は有料のアプリを一度使用したことがあったんですが、相談1回に3,000円取られて、それで結局また病院に行って、結構お金がかかったというイメージがあるものですから、そういう個人で相談ではなくて、自治体に相談窓口があると助かるなと思っています。実際、電話での相談もあるんですが、耳が聞こえない難聴の方もいらっしゃるし、そういう方からすれば相談しにくいんですね。なので、文字で打って相談して、すぐ返ってくるという環境が大事だと思っています。その中で、特に子育て中の方はなかなか相談できませんし、また高齢の方も相談できないということもありますので、勇議員からも先ほどあったんですが、耳が遠い高齢者の方が夜から電話をするかという、やはりやらないと思うんですね。そういう方々については、やはり医療系の相談とか、なかなか今、アプリを使ってというのは難しいかもしれないんですけども、私たちもどんどん高齢化していきますので、その中でアプリも使えますし、そういう方も増えてくる中では、早期に導入していただきたいと思いますが、今後どのような調査とか、どのように動いていくという方針がある程度決まっているのであれば、教えていただきたいと思います。

○議長 知念富信君 民生部長。

○民生部長 知念 功君 答えいたします。以前にもご質問をお受けした、例えば子育て支援のアプリとか、そういうものの内容とかもこれまで検討してまいりました。そういう状況の中で、やはり財政的な部分の課題とかもありまして、補助メニューとかがないか

とか、そういう部分で検討をしてはおります。議員おっしゃいますように、聴覚に少し障害あるとか、そういう場合においては電話という部分では厳しいですので、こういうアプリを活用して文字で相談できるというのは大変有効だと思いますので、こういう部分も含めて検討していきたいと。沖縄県においては、＃8000という小児救急の電話での相談という部分が、今まで時間が少し短い部分があったんですが、今、土日祝祭日等においては24時間相談ができるような体制にもなってきています。我々としては、この部分をもっともっと広報をして、この＃8000の活用という部分はやっていきたいと。そういう周知もしながら、議員がおっしゃっているような遠隔の健康相談、医療相談等が南風原町で早く整備できるような形で、特に今回のコロナの感染症対策においては、こういう部分の必要性を感じておりますので、しっかり調査研究して取り組んでいきたいと思います。

○議長 知念富信君 12番 赤嶺奈津江議員。

○12番 赤嶺奈津江さん ありがとうございます。是非相談しやすい環境整備を早期にお願いしたいと思います。早期に整備されるものと期待して、この質問は終わりたいと思います。

3番目ですが、以前から雨水排水路の維持管理ということをお願いしたりという部分もあって、ちょうど3号線のほうも改善していただいた経緯もあるんですけども、実際、宅地の開発とか、表面水が増えて冠水してしまう道路とかも出てきているんです。その中では維持管理、掃除も含めということではあるんですが、(2)ともつながるんですが、町民の方から大雨のときに連絡が来て、グレーチングが浮いて、ありはするんですよ。多分留め金か何かが外れて浮いて、勢いで押されて結構危ないというようなことがあったり、そういうことがあるものですから、先ほどからLINEとか、そういう情報のやりとりも必要ではないかということで、大志議員からもあったりするんですが、町民からその画像を送ってもらうとか、そういうところで確認。全部を巡視するのはかなり厳しいと思うんです、大雨のときに全部を回ると。1カ所悪いところがあつたら、そこに集中して、どこがどうなっているかという確認になってしまうので、そういうところで多分、今の状況では、先ほど確認した一方通行でしかできないということがあったので。返信はしなくても動画を送ってもらう、画像を送ってもらう。そうすれば町道のどこが悪いのか、町民から情報を得やすいと思うんですね。わざわざ電話が来るわけでもないですし、後日の確認で、「ああ、こうだったんだな」ということもできますし。特に土日の夜中とか、大雨が降ってもすぐには動けないですよ。そういうところでそういう活用も必要ではないかと思うものですから、再整備の状況については、多分、確認できているところしかやらないはずなので、なかなか口に出して言わない町民の方もいますし、目に入らないと確認できないところもあるので、そういうところでの活用もすべきだと思いますけれども、いかがでしょうか。

○議長 知念富信君 総務部長。

○総務部長 宮平 暢君 こちらのほうは、南風原町の公式LINEへの情報提供という

ご質問だと思いますので、私のほうでお答えします。

現在、町からの一方的な発信にとどまっておりますが、今後は改修を進めて、町民からの情報提供。今あった災害時の夜中の写真を送ってもらうとか、情報があれば、また対応も早くなりますので、そういうLINEの活用に改修してまいりたいと考えております。

○議長 知念富信君 12番 赤嶺奈津江議員。

○12番 赤嶺奈津江さん ありがとうございます。私も実際、雨が降って、大雨の中、外に出られない状況の中では確認にも行けないわけです。車が入れない状況もありますし、冠水していると。そういうときには写真を送ってもらって、そういうことで確認したりもするんですけども、やはり直接町が把握して、どこを整備しないといけないとか、ちょっとまずいというのが分かればいいなということでの提案です。実際、グレーチングが浮いているという話を持ってこられた方は中部出身の方なんですけど、小学校時に排水から同級生が海まで流されたという事件があって、生命に関わったかどうかまでは確認していませんけど、そういうこともあったと。特に宮平とか、目の前は川です。小さい子だと何があるか分からないと。絶対にないとは言えないのが事件・事故ですから、そういうことも含めれば、そういう情報提供は必要だと思いますので、是非そういうところから情報を収集して改善、また再整備をやっていただきたいと思います。もう前向きな答弁をいただいていますので、これで終わりたいと思いますが、是非早期の改善をお願いしたいと思います。以上です。

○議長 知念富信君 休憩します。

休憩（午後1時30分）

再開（午後1時30分）

○議長 知念富信君 再開します。

以上で本日の日程は、全部終了しました。本日は、これで散会します。お疲れさまでした。

散会（午後1時30分）